



九頭竜山下流

新江用水

新江用水は九頭竜川の鳴鹿大堰(坂井市丸岡町)から取水され、すぐに十郷用水と分水し、丸岡町東部の山沿いを北へ、竹田川近くまで流下しています。

新江用水は、1625年に加賀の浪士渡辺泉龍と丸岡藩の村人によって4年の歳月をかけて、幅2m、長さ10kmの新江用水が開かれました。

当時の工事は、山沿いで地形も複雑であったため、見通しが悪く、夜中にたいまつを立てて高低を確認しながら測量を行ったとされています。



開削前のこのあたりは、荒地で農家がほとんどありませんでした。また、用水を渓流水に頼っていたため、上下流の水争いが絶えませんでした。新江用水の完成により、新たに300haの水田を拓くことができ数百の農家が生まれ、水の争いもなくなりました。

新江用水開削の難工事を成し遂げた渡辺泉龍は、農民から深く感謝され、丸岡藩主の祈願所であった女形谷の直乗院にある石碑(坂井市指定文化財)にその名前が刻まれました。